

0歳からはじまる生涯教育

～機構改革による子育てと教育の統合～

はじめに

大野市は、令和3年4月からの10年間を期間とする、長期的・総合的な市政運営の指針として「第六次大野市総合計画」を定めた。この計画は、市民や各種団体などが主体的にまちづくりに取り組む上で、大野市の将来を展望し、まちづくりの目標と方向を明示した最上位計画であり、6つの分野に分けて目標を定め、各種施策を推進している。

(1) 将来像

人がつながり地域がつながる
住み続けたい結のまち

(2) 6つの分野と目標

① こども分野

未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち

② 健幸福祉分野

健幸で自分らしく暮らせるまち

③ 地域経済分野

歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち

④ 暮らし環境分野

豊かな自然の中で快適に暮らせるまち

⑤ 地域づくり分野

みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち

⑥ 行政経営分野

結のまちを持続的に支える自治体経営

1. 分野別目標の実現に向けて

(1) 機構改革による連携の強化

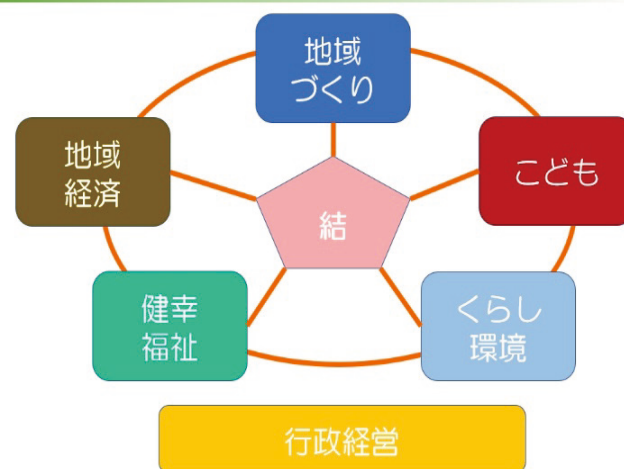
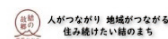
総合計画の初年度である令和3年4月に機構改革を行

い、各部局内の連携を強化することで、効率的で効果的に取り組むこととした。

この中で、子育てや教育に関する「こども」分野として、「未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち」を基本目標に取り組むこととし、部局内で施策や事業の連携をしやすいするため、子育てと教育を教育委員会が担当する体制を整えた。

また、これまで教育委員会が担当していた、文化とスポーツに関しては市長部局に移された。

第六次大野市総合計画



令和2年度まで

◎市長部局

福祉こども課

保育所、児童センター

◎教育委員会事務局

教育総務課

小中学校の教育に関すること

生涯学習課

生涯教育、家庭教育、図書館、文化振興に関すること

スポーツ振興室

生涯スポーツ、競技スポーツに関すること

文化財課

文化財の保護や活用に関すること

令和3年度から

◎市長部局

地域文化課
文化振興に関すること

スポーツ推進課
生涯スポーツ、競技スポーツに関すること

◎教育委員会事務局

こども支援課
子育てに関すること

教育総務課
小中学校の教育に関すること

生涯学習・文化財保護課
生涯学習、家庭教育、図書館、文化財に関すること

2. 子育てと教育を統合した施策の推進

令和3年度からこれまでの2年間、教育委員会事務局内の連携を図り、子どもから大人までが生涯を通じた学びができるよう、いろいろな取り組みを進めてきた。未就学の教育と子育て、学校教育、生涯学習の3つの区分に分け、今後の方向性も含めて紹介する。

(1) 未就学児の教育と子育て支援

① 目指す姿

安心して結婚・出産・子育てができ、すべての子どもたちが夢を持って笑顔で健やかに育つまち

② 現状と課題



- ・結婚から妊娠期、乳幼児期、学童期などライフステージに応じて切れ目のない子育て支援策を推進している。
- ・結婚支援や子育てに関する相談対応など、結婚から子育てまで切れ目のない支援を行っている。

- ・質の高い保育・幼児教育の提供や子育てに掛かる経済的負担の軽減、子どもたちの放課後の居場所づくりなど、保護者ニーズに応じた子育てサービスを提供しているが、長期休業中の保育を必要とする子どもの居場所の確保が求められている。
- ・公立保育所における医療的ケア児の受け入れや、要保護児童の対応など、サポートを必要とする子どもと家庭を支援している。
- ・子どもたちが、天候にかかわらず楽しく遊び、子育て世代が交流できる遊び場の設置が求められている。

③ 主な取り組み

「大野ですくすく子育て応援パッケージ」(大野市の重点プロジェクト)

- ・20歳までの医療費の自己負担分を助成し、医療費を完全無料化(19~20歳は市内から県内の大学等に通学する学生に限る)
- ・第2子以降の保育料を無料化(所得制限なし)
- ・第2子以降の児童を在宅で育児する家庭に、家庭育児応援手当を支給(所得制限なし)
- ・第3子以降の小中学校給食費の無料化や保育所、小中学校等の食材費高騰分を補てん



大野ですくすく子育て応援パッケージ
～詳しくは、こちらを参照～



④ 今後の方向性

(ア) 長期休業中の子どもの居場所の確保

教育委員会3課とスポーツ推進課が連携し、各校区の「放課後子ども教室」を市内の体育施設に集めて「学びと遊びと体験の広場」と称し、充実したカリキュラムを備えた活動の場とする。

(イ) こども家庭センター設置準備

令和6年4月設置に向け、母子保健と児童福祉に知識を有するアドバイザーを招へいし、新たに設置が必要となる「統括支援員」を育成するなどの準備を進める。

(2) 学校教育の充実

① 目指す姿

子どもたちの確かな学力や夢に挑戦する力、ふるさとを愛する心を育むまち

② 現状と課題

- ・子どもたちのふるさとを愛する心が育っている。
- ・学力、体力ともに全国平均を上回っている。
- ・保幼小中高のさらなる連携を充実させる必要がある。
- ・学校再編を進めているが、児童生徒数の減少が今後も進んでいく。
- ・小中学校の校舎や設備の経年劣化が進んでいる。

③ 主な取り組み

「大野っ子育成プラン」(毎年度作成)

- ・「確かな学力を育む学校づくり」と「安心して通える学校づくり」の2つを重点事項とした魅力ある学校づくり
- ・学校間の情報共有や協議による校区の総合力の向上
- ・未就学児から高等学校までの18年をつなぐ教育
- ・すべての子どもの最適な教育環境を整えることを目的とした小中学校の再編

④ 今後の方向性

「大野らしさが生きる教育」を推進する

(ア) 魅力ある学校づくり

小学校と中学校で一貫した指導観による教育を進めるとともに、未就学児から高校、特別支援学校までの18年をつなぐ教育をさらに推進する。

【保幼・小・中・高・特支学校の連携】

- ・保幼小中高校、特別支援学校の保育者、教職員が一堂に会し、実践の共有と今後の取り組みの検討



▲大野っ子育成の集い

【保幼小の連携】

- ・参観交流、公開保育、スタートカリキュラム研修会などによる共通理解



▲小学校教員の保育所参観

【小中の連携】

- ・中学校区内の全教員が1校に集まっての参観や協議、互見授業などによる共通理解



▲校区交流の日の授業参観

【中高の連携】

- ・中高連絡協議会(特支学校含む校長)、オープンスクール、互見授業、GIGA スクール担当者会などによる協議



▲ GIGA スクール担当者会

(イ) 学習集団の適正規模化

令和6年4月に中学校を5校から2校に、令和8年4月に小学校を9校から7校にする、小中学校再編計画を着実に推進する。



▲中学校再編に係る交流事業の様子

(ウ) 未来志向の学び舎づくり

通うことが楽しくなる魅力ある学校施設にするとともに、安心安全で省エネルギーな施設を目指して、長寿命化改修を進める。

(エ) 地域とともに子どもを育てる

地域の大人たちが参画する学校づくりを進めるため、コミュニティー・スクールを構築するとともに、部活動の地域移行を推進する。

(3) 生涯学習の推進

① 目指す姿

市民が、生涯にわたって主体的に学び、地域づくりに

積極的に取り組むまち

② 現状と課題

- ・年代層によって生涯学習に求める目的や学習内容が異なる。
- ・テーマや内容により高齢者や女性の比率が高くなるなど、参加者層に偏りがある。
- ・生涯学習情報の認知度が低く、情報発信の工夫が求められる。

③ 主な取り組み

- ・保護者や乳幼児を対象に育児支援や交流の場づくりを推進し、情報の提供や講座を開催



▲親子で工作づくり

- ・小学生を対象に、放課後子ども教室や子ども会育成会で、体験学習や交流活動を実施
- ・中学生を対象に、ジュニアリーダーを育成
- ・市民を対象に、健康や食事、災害対策など専門の講師を招き、さまざまな課題についての理解を深める講座を開催



▲一般市民向け健康講座

④ 今後の方向性

「大野市生涯学習推進計画（令和4年1月策定）」

基本目標：優しく、賢く、たくましい大野人 いきいき
わくわく学ぶ 結の故郷

(ア) ひとづくり

地域を担うひとづくりを推進する。

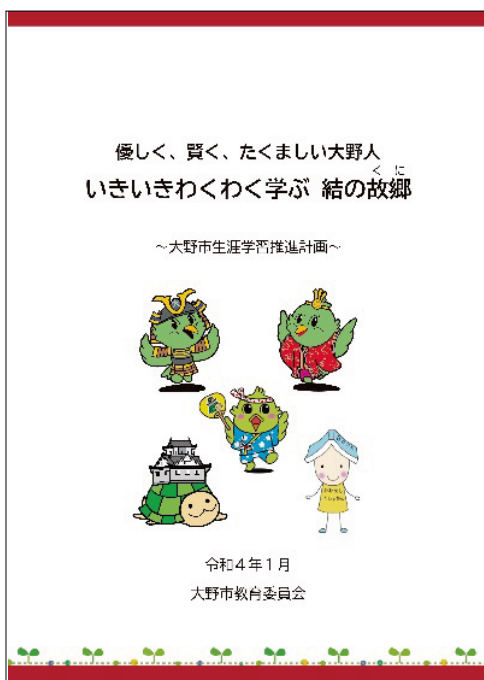
(イ) つながりづくり

地域での交流を深め、支え合いを広げる。

(ウ) 学ぶ場づくり

地域住民が利用しやすい活動拠点を目指す。

また、令和5年4月の子ども家庭庁の発足を契機に、国による子ども政策の推進に期待を寄せながらも、この考え方を先駆けて取り入れた自治体としての自負を持って、本市の宝物である子どもたちを育てていきたい。



大野市生涯学習推進計画

おわりに

令和3年の機構改革から2年経過し、教育委員会事務局内の連携が軌道に乗ったことで、ようやくこども分野の施策展開の芽が育ってきている。

反面、これまで教育委員会事務局の所管であった、文化やスポーツ分野との連携が薄くならないように十分配慮する必要がある。

例えば、休日の部活動の地域移行は、文化やスポーツ分野との連携が不可欠であることから、総合教育会議などを活用して、市長部局との連携を深めていきたいと考えている。